



去年の秋、「組合員になりたいのですが」と、一人の女性が組合を訪ねてきました。組合員の減少が続く中、脱退したいとい

山口まゆみさん

(前橋市在住)

炭焼きを始めた



訪ねてくることはあっても、加入したいと訪ねてくる人は滅多にいません。この時の女性が、山口まゆみさんです。

山口さんは旧吾妻町大戸の生まれ。

前橋市で中学校の教員をしていましたが、コロナ禍で土日の部活がなくなり、自由な時間が増え、何かこの機会にできることはないかと考えたところ、倰渕町権田で炭焼きをしている叔父を思い出します。叔父が元気なうちに、炭焼きを教えてもらい、退職後も続けることになりました。

▼山を守り技術を継承したい

山口さんがナラなどを伐採し、それを八十六歳の叔父がクサビを使って割り、炭窯に詰め込み、焼き、窯が冷えてから炭を取り出すという十日以上も続く一連の作業です。

その後、叔父が高齢を理由に施設に入所してしまい、教えてもらったのは、たったの二回だけ。

最初は暇つぶしのつもりの炭

▼コロナ禍が契機

山口さんは旧吾妻町大戸の生

焼きが、指導を受けるうちに、「叔父の育ててきた山を守り、その技術を受け継ぎたい」メラメラとやる気の炎が燃え上りました。

▼新たな指導者を得て技術も上達

現在、一ヶ月半に一回のペースで、女友達に手伝ってもらいまして。ながら炭を焼いています。毎回、どんな炭ができるのかが楽しみだと思います。

山口さんの焼いた炭は、東吾妻町や長野原町の道の駅やネット通販で入手できます。

一人で炭焼きを続けるには経験が浅く、途方に暮れていたところ、片品村に須藤さんという炭焼き名人がいるという情報を入手。連絡を取ると、すぐに指導してくれることになりました。炭窯にはその設置環境による特性があり、窯ごとに温度管理も違ってきます。窯に火入れし、

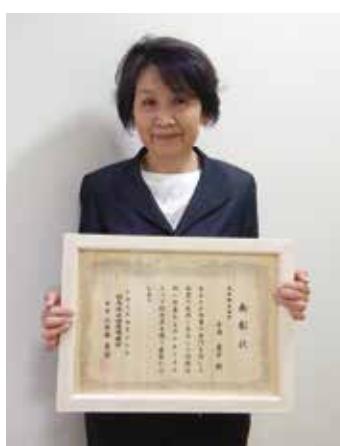
「まだ、利益は出ないし、大変だけど楽しい。単純作業だから続けられるのよ。」と謙遜気味に話します。

いいえ、奥深い作業です。これからもがんばってください。

小池美子さんが林業功労者表彰受賞

令和六年四月十六日、前橋市で群馬林政推進協議会主催の令和五年度林業功労者表彰式が行われ、本組合の小池美子さんが林業功労者として表彰されました。

小池さんは、昭和五十七年に倰渕森林組合に入職、その後ブランクはありましたでしたが、平成十九年に本組合に復職し、これまで三十一年間にわたり経理担当として組合の財務を担ってきました。



また、平成三十年には管理課長に、また令和五年六月には本組合初の女性理事に就任しました。

この間の功績が評価され、今回の一回の受賞につながつたものです。おめでとうございます。